

## Topic 01 令和8年度 熊本大学教職大学院スタート



熊本大学教職大学院は10年目を迎えました。大きな節目となる今年度は、ストレートマスター24人、現職教員9人、合計33人が入学しました。

「理論と実践の往還」を「教育研究を推進する核」とし、学校現場での実践に身を置きながら学びを深めると共に、現職教員とストレートマスターが、経験や教科、校種の違いを生かしながら、高度な教育実践力を習得していきます。

今回は僕たちが  
授業の紹介をします！



地域発の学校改革の現場から  
更なる「理論と実践の往還」を！

教育学研究科長 藤田 豊

九州地方の今後10年間の人口動態の予測をみると、人口減少のペースは益々加速されて行きそうです。熊本県内でも、小・中学校の統廃合や義務教育学校化への準備が各自治体で進められています。地方における中核的な高等教育機関として、高度な教員養成機能を維持・発展させていくことは、本教職大学院に課せられた大きな使命です。地域発の学校改革の現場に身を置きながら、教員スタッフや仲間との真剣な議論を通して自ら問い、自ら考え、自ら学ぶ教育課程を一層充実させて参ります。

## Topic 02 授業紹介

### 教育相談実践論

自分がどれだけ貢献できるかという視点をもってグループ活動に参加することの重要性を痛感しました。分からないことを、少しでも分かるためにとりあえず喋ってみることに、意識していきたいと思えます。

(教科教育実践高度化コース 数学 福永祐真 PI ストレートマスター) 実際に現場の経験のある現職の先生方とのディスカッションを通して学部よりも一回り高度な話し合いができました。自分もこれから教員としての強みを得るためにたくさんの視点や知識を授業や実習を通じて学んでいきたいです。

(学校教育実践高度化コース 種子永裕成 PI ストレートマスター) ディスカッションを通して一つだけではない沢山の視点から捉えることの重要性を感じました。少しでも多くのことを学び、自分の教育観を再構築していきたいと思えます。

(学校教育実践高度化コース 馬場青俊 PI ストレートマスター)

## Topic 03 研究紹介

### 小学校の校内研修における教師の指導観の捉え直しを促す省察の効果

近年、理論の単純な適用や教師の技術的熟達だけでは解決できない課題が学校現場でも多発しています。その解決の糸口は、行為の前提となる指導観や子供観、教育観といった「観」の捉え直しにあるのではないかと考え、研究を行っています。具体的には、教師の指導観の捉え直しを促すために、公立小学校の校内研修にシヨーンの省察概念やコルトハーヘンのALACTモデルを取り入れます。また、その過程で、教師がどのように指導観を捉え直すのか、捉え直しを促す省察の特徴は何かを質的・量的に分析します。これらを明らかにすることができれば、今後の現職研修の有効な一手として省察を位置付けることができるのではないかと期待しています。



P2 中島 康哲